

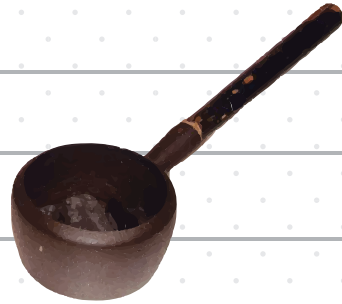
アイロンのおなはし

◆火のし

なべ ぶぶん すみび い
鍋の部分に炭火を入れて、アイロンのよう

つか ひ
に使いました。火のしはのんびりしすぎると、

こ あつか むずか
焦げてしまうので、扱いが難しかったそう。



◆焼きごて (こて)



せんたん きんぞくぶぶん すみび ねっ い
先端の金属部分を炭火などで熱してから、衣

ふく の ひ
服にあててしわを伸ばしていきます。火のしと

おな ちやくせつ ちからかげん むずか
同じように直接あてるので、力加減が難しかった

たそうです。

◆炭火アイロン

なか ねっ すみ ねっ
アイロンの中に熱した炭をいれて、その熱

ほんたい おも の
と本体の重さでしわを伸ばしていました。

めいじじだい つた いっぽんかてい ふきゆう
明治時代ごろに伝わり、一般家庭にも普及

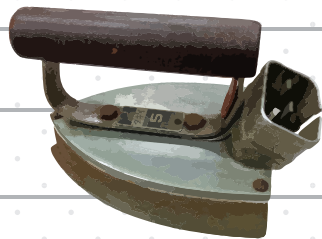
していましたが、でんき とうじょう
電気アイロンの登場で、

しだい つか
次第に使わなくなっていました。

いま でんき むかし
今は電気だけど、昔は
すみ
炭であたためたものを
つか
使っていたんだね。



◆電気アイロン



でんき りよう はじ おん
電気を利用したアイロンで、始めのころは温

ど ちょうせつ しだい おんどちょう
度は調節できませんでしたが、次第に温度調

せつ さ
節ができるようになり、コンセントを指すだけ

つか
で使えるようになりました。

